

# ふれあい FUREAI



山梨県イメージアップ大賞を贈呈  
第74回全日本バレーボール高等学校選  
手権大会で日本一に輝いた日本航空高  
等学校男子バレーボール部。県庁を訪れ  
た前嶋主将(左)、月岡監督(右)に「山梨県  
イメージアップ大賞」を贈りました。詳しく  
はP18「県政ニュース」をご覧ください。

よくわかる

# 令和4年度当初予算

今年4月からの1年間、県はどんなことにいくら使うか。その計画を示した令和4年度当初予算案を2月定例県議会に提出しました。最優先の新型コロナウイルス感染症対策はもちろん、その先の未来へ向けて山梨の可能性を生かしきるため、攻めの予算を組みました。一般会計予算額は過去最大の5467億円。感染症や自然災害などに対する強靱な社会づくりに加え、成長産業や地域資源の高付加価値化、共生社会子育て・教育・介護などの基礎条件を充実させます。そして、コロナ禍を乗り越え、山梨県を前進させる本番の年にしていきます。



令和4年度当初予算案を説明する長崎知事

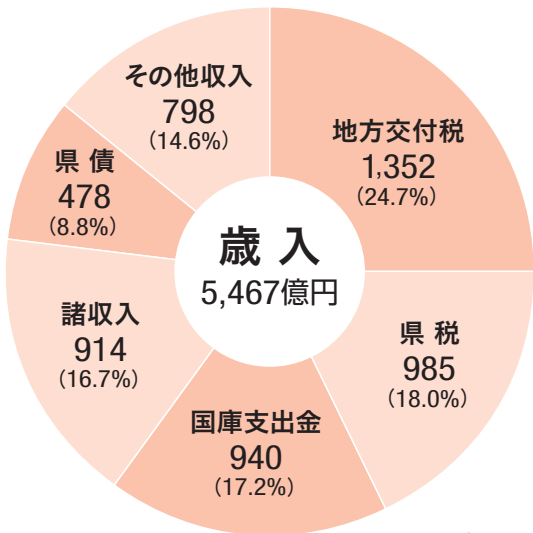
令和4年2月定例県議会提出予定案件について

<予算案>

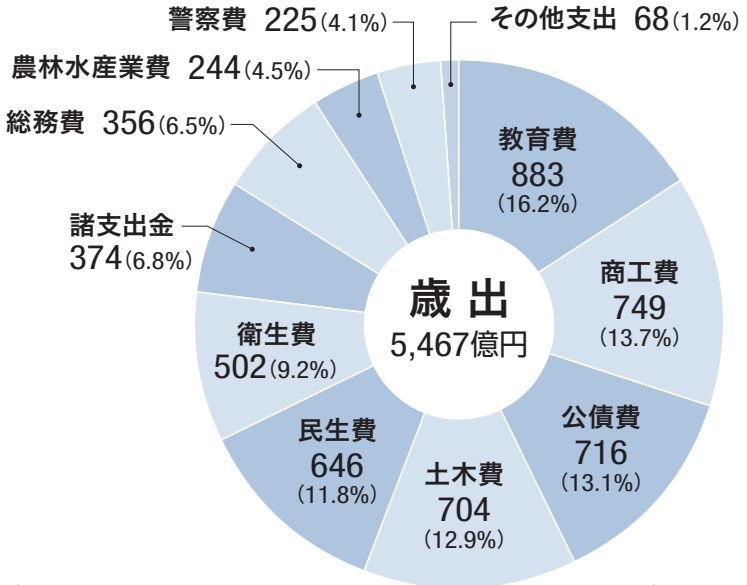
- 令和4年度当初予算 5,467億円余
- 令和3年度2月補正予算 572億円余  
(うち経済対策分) 426億円余

## 新型コロナを乗り越え、その先の未来へ! 「山梨の可能性を生かし切る」攻めの予算

一般会計当初予算額 **5,467億円**



(単位:億円)



(単位:億円)

- 地方交付税** 地方公共団体が一定の行政サービスを提供できるよう、財源が不足する団体に国が配分するお金
- 県税** 県民税や事業税など、県に納められる税金
- 国庫支出金** 特定の事業の財源として国が交付するお金
- 諸収入** 県税の延滞金や預金利子、県からの貸付金の元利償還金など、他の収入科目に含まれない収入
- 県債** 公共施設や道路の整備などの資金を調達するため、県が国や銀行などから長期にわたり借り入れるお金

- 教育費** 県立学校の運営や整備などに使うお金
- 商工費** 商業や工業の振興などに使うお金
- 公債費** 県債の返済に使うお金
- 土木費** 道路の整備や河川の改修などに使うお金
- 民生費** 社会福祉や児童福祉などの事業に使うお金
- 衛生費** 健康増進や疾病予防、環境保全などに使うお金
- 農林水産業費** 農業、林業、水産業の振興などに使うお金
- 警察費** 犯罪や交通事故の防止などに使うお金



## 予算のポイント

### ◆新型コロナ対策費は前年比46%アップ

新型コロナウイルス感染症との闘いは今年度も続くことが想定されます。そこで、感染拡大の防止や医療提供体制の確保のため、前年度の464億円を46%上回る677億円（令和3年度2月補正予算を含む）を新型コロナ対策費に充てました。必要な方に必要な医療を届け、皆さんの命と生活・経済を守るため、十分な対策を実施していきます。

#### 新型コロナ対策費 （2月補正含む）

# 677億円

- 感染拡大防止と医療提供体制の整備 449億円  
検査体制の強化・ワクチン接種の促進・病床の確保など
- 県民生活に与える影響の最小化と新しい生活様式への対応 35億円  
休業助成金の支給・グリーン・ゾーン認証制度の運営など
- 県内経済の安定化・反転攻勢に向けた対策 193億円  
中小企業の事業再構築の支援・やまなしGo Toトラベルの推進など

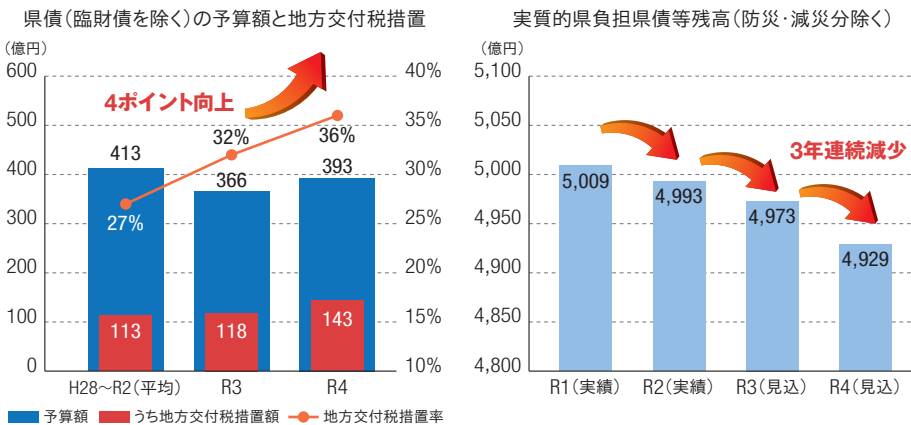
なお、感染力の強いオミクロン株で多くの皆さんが打撃を受けたことを踏まえ、資金繰りに苦しむ事業者の皆さんへの支援はもちろん、学校や保育所で感染が発生したことでお子さんの検査対応のために仕事を休まざるを得なかった「ひとり親世帯」などを素早く支援するため、総額83億円の令和4年度一般会計補正予算案を2月定例県議会に追加提案しました。

### ◆もしもの出費に備えて「主要3基金」は取り崩しを抑制

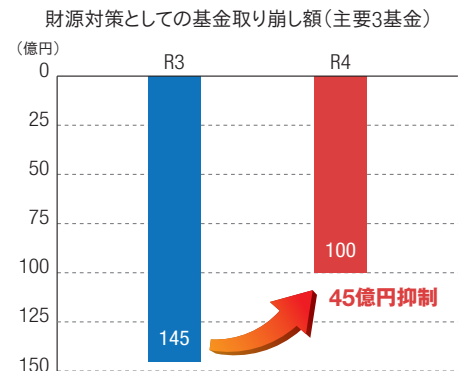
過去最大の予算額になりましたが、財政の健全性はしっかり確保しています。県の負担を最小にする一方で最大の効果を上げられるよう、国の補助金や将来の県の負担が少ない有利な地方債を活用するなどの工夫をしました。その結果、県債（県の借金）予算のうち国が将来負担する割合は4ポイント増え、また実質的に県が負担する県債残高（防災・減災分除く）については3年連続で減りました。

こうした工夫によって、過去最大の予算額としながら主要3基金（県の貯金）から取り崩す額を大幅に抑制しました。基金をしっかりと確保することで、もしもの出費に備える体制を実現しました。

#### 将来の県負担の抑制



#### 基金からの取り崩し額の抑制



### ◆重点的にお金を使う「3つのK」

3つのKとは「強靱化」「高付加価値化」「基礎条件充実」の頭文字です。感染症や自然災害に強く、付加価値の高い資源や産業を育て、子育て・教育・介護なども充実させる。そして山梨県のあらゆる可能性を開花させていきます。

#### 強靱化の「K」

感染症、自然災害、事故・犯罪などに対する強靱化

#### 高付加価値化の「K」

産業、DX、観光などの高付加価値化

#### 基礎条件充実の「K」

共生社会、子育て、教育、介護などの基礎条件の充実

# 強くしなやかな社会をつくり 「三つのリスク」に備える

山梨県は①感染症②自然災害③事故・犯罪の三つのリスクに対して強くしなやかな社会の実現をめざします。こうしたリスクから県民の皆さんの生命と財産を守り抜くことは、県に課せられた最優先の使命です。皆さんがこの山梨の地で、それぞれの持てる可能性を最大限開花させるため、県はこの三つのリスクに対する備えを万全にし、生活の不安を取り除くことに全力を尽くします。



## ①感染症に対する強靱化

**必要な方に必要な医療を届けるとともに「命」と「生活・経済」の両立をめざす**

### 最高水準の体制をさらに充実

必要な方に必要な医療を届けるため、病床や宿泊療養施設の確保をはじめとした新型コロナウイルス感染症対策をさらに前進、充実させます。

現在、病床と宿泊療養施設を合わせて1500人以上の方が、施設で治療や療養ができる体制となっています。この数字は、人口比で全国最高水準の受け入れ能力です。これに加えて、医師などの健康観察を受けながら自宅で療養する「退所後ケア」や「やまなしホームケア」の仕組みを整え、常に医療が寄り添う医療提供体制としていきます。

### 感染症専門人材の養成

県内には、感染症の専門医が1人、感染症に精通した看護師「感染管理認定看護師」が23人います。これらの専門資格を持った医師や看護師が増えると、感染症への対応が一層強化されることは間違いありません。

そこで県では今年度から、山梨大学医学部附属病院や県立中央病院が行う感染症専門医の養成の取り組みを支援し、また県立大学が感染管理

認定看護師を育てる教育課程を開設するための準備を進めます。

こうした取り組みによって、県内で感染症専門医5人、感染管理認定看護師60人の確保をめざします。



感染管理認定看護師は院内の感染拡大防止対策の中心となる

### 「対策強化」で経済にアクセラ

ウイルス検査体制の充実やワクチン接種の加速化を図ります。加えて、グリーン・ゾーン認証制度の対象となっていない事業者が行う感染症対策への助成など社会全体の対策を強化し、命と生活・経済の両立をめざします。経済のアクセルを踏み込むタイミングを逃さないよう、感染状況を注視していきます。



【② 自然災害に対する県土の強靱化】  
緊急性の高い防災・減災対策などに  
重点的に取り組む

― 防災・減災対策を推進

公共事業費には前年度を大幅に上回る93.1億円（令和3年度2月補正予算を含む）を計上しました。

国内では大規模な自然災害が多く起きていることから「県土の強靱化」は特に緊急性が高い事業です。水害に備えた河川整備や土砂災害への対策、ため池の耐震化などの防災・減災対策事業に重点的に取り組み、県民の皆さんの命や財産を守ります。

― 富士山噴火に機動的に備える

富士山は噴火するまでどこに噴火口ができるか特定できません。また、被害は広範囲にわたります。

富士山でどのような噴火が起きたとしても、県民や観光客の皆さんの安全を守ることが重要です。そこで、噴火口の場所に応じて適切な位置に現地対策拠点を設置できるよう、必要な車両や資機材を整備し、機動的に対応できる体制を整えます。



河川整備前後の鎌田川(中央市)

【③ 事故や犯罪に対する強靱化】  
交通事故や犯罪が起こりにくい社会をつくる

― 子どもの安全と地域の防犯

昨年6月、千葉県八街市やちまたで通学路を下校中の小学生の列にトラックが衝突し、児童5人が死傷する痛ましい交通事故が発生しました。



子どもが安心して通れるように横断歩道などを整備する

今年度は、県独自の対策として、通学路だけでなく小学校や放課後児童クラブ、保育所などの周辺道路でも横断歩道などの緊急整備を実施します。

こうした取り組みによって、点検で対策が必要とされた約700カ所すべてで安全対策が完了し、県内全域で子どもが安心して歩くことができる環境が整います。

また、地域の見守り役となり犯罪の予防につながる防犯カメラを設置する市町村や自治会などを支援し、地域の防犯力を強化します。

これを受け山梨県では、警察と学校、教育委員会、道路管理者などが連携して、小学校の通学路にある危険箇所を点検しました。その結果対策が必要とされた箇所に、横断歩道などの交通安全施設を整備しています。



犯罪などの発生を予防する防犯カメラ

# 可能性を最大限開花させ

## 人口減少に負けない高収益体質へ

山梨県には素晴らしい可能性に満ちた産業や地域資源があふれていますが、しかし、これまで十分に活用されてこなかったものも数多くあったのではないのでしょうか。この埋もれた可能性をしっかりと発掘し、他の可能性との連携やこれまでもと違った活用の仕方をするなどの一手間で、さまざまな分野の高付加価値化が実現されます。高付加価値化によって得られる「果実」は、皆さんの暮らしの向上につながります。



### 〔産業の高付加価値化〕 成長産業を支援し

#### 県内経済の安定と成長につなげる

##### ― 医療機器分野への参入を支援

機械電子産業は山梨県の主力産業で、付加価値額の6割を占めます。その高い技術力を生かし、より多くの県内企業が今後も成長が期待される医療機器分野に進出できるように、ワンストップで企業を支援する「メディカル・デバイス・コリドー推進センター」の体制を強化します。

東京圏の医療機器メーカーを集中的に訪問して求めている技術を把握したり、県内企業の技術力をPRする動画を制作し宣伝したりして、県内企業が医療機器分野へ新規参入できるように後押しをし、県内経済の安定や成長につなげていきます。

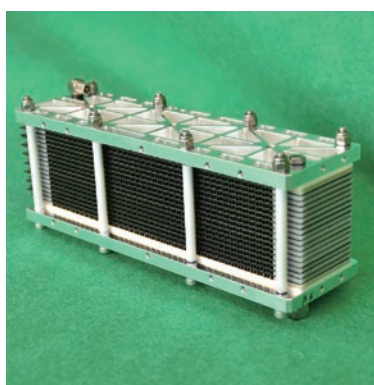
##### ― 水素・燃料電池の基幹産業化

水素・燃料電池の研究でも、山梨県は国内でもトップレベルの蓄積があることをご存知ですか。県では今年度、山梨大学などと共同で開発した小型で高性能な燃料電池「やまなしスタック」の実用化に取り組み、これを活用した新製品の開発を支援します。

また、新たな研究開発拠点として

整備を進めてきた「次世代エネルギーシステム研究開発ビルディング」が甲府市の米倉山に完成します。すでに、

日本を代表する燃料電池の評価機関「FC-Cubic<sup>キュービック</sup>」の移転が決まっています。これを一大チャンスと捉え、関連する産業や企業を集積できるように働き掛けていきます。



新製品への活用が期待される  
小型の燃料電池「やまなしスタック」

##### ― スタートアップ企業の成長を支援

社会の課題解決に取り組む「スタートアップ企業」を山梨県に集め、県内企業と連携し、産業を活性化させたいとの思いから、最先端の技術やサービスの実証実験の場を、スタートアップ企業に提供します。

実証実験終了後も専門家による手厚い伴走支援をして、県内での事業拡大を後押ししていきます。



「デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進」

誰も取り残さない  
人に優しいデジタル社会を目指す

— 三つの分野でデジタル化を推進

DXとは、データやデジタル技術の活用がもたらす社会変革を意味しています。山梨県は「誰も取り残さない、人に優しいデジタル社会」をめざし「暮らし・産業・行政」の3分野で積極的にDXを推進します。高齢者も、障害のある方も、外国人の方も戸惑うことなく暮らせる、利便性の高い社会を実現します。

— 暮らしのDXを進める

暮らしのDX推進に向けては、現在県内の3町村で、高齢者が使いやすいタブレット端末を使って行政情報などをお知らせする実証事業が県の支援で行われています。

また、スマートフォンアプリで配車を予約し、希望の時間に運行区域内の希望の場所まで移動できる、人工知能(AI)を活用したオンデマンド交通の導入を検討している市町村への支援など、今年度は高齢者に限らず、さまざまな方の利便性を高める実証的な取り組みも進めています。

— 産業分野のDXを支援

介護現場で介護ロボットや情報通信技術(ICT)の活用が進むと、介護にあたる人の負担軽減や作業の効率化が進みます。製造業の現場でデジタル技術が導入されると、競争力や生産性が向上します。林業の現場で森林クラウドやICTを活用したスマート林業を推進することで、生産性が上がり、林業従事者の所得が向上します。また、山梨大学医学部附属病院ではAIを活用した在宅医療支援拠点や、遠隔による放射線治療システムの整備を進めます。

県は、こうしたさまざまな分野で行われる、デジタル技術を生かした取り組みを支援します。

— 行政もDXを推進

県が持っているさまざまなデータを社会全体で活用できるようにするための基盤整備や、デジタル技術を最大限に活用して地域課題の解決につなげることができる人材の育成を庁内で進め、DXによる行政サービスの向上に取り組みます。



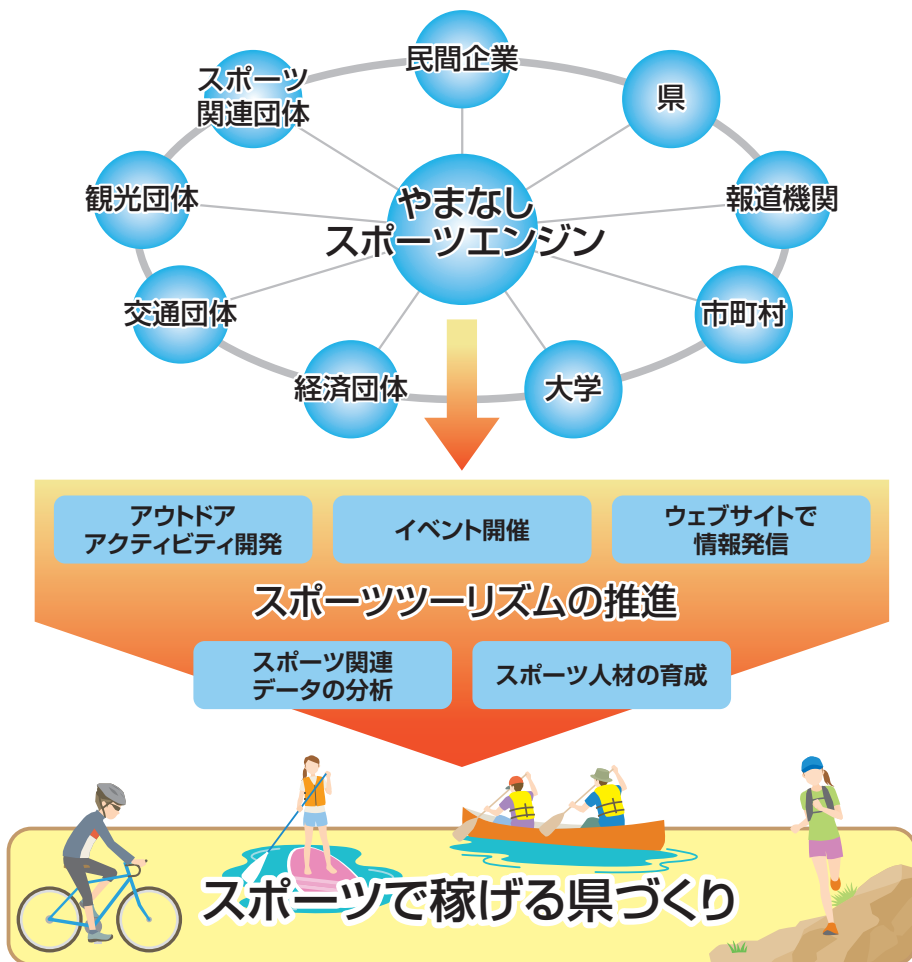
## 「スポーツで稼げる県づくり」 スポーツで地域を活性化

「やまなしスポーツエンジン」設立で  
アウトドアスポーツを推進

豊かな自然環境に恵まれた山梨県は、コロナ禍で3密を避けられると注目を集めるアウトドアスポーツを楽しめる場として、大きな魅力と可

能性を秘めています。

この機会を生かすため、県は、スポーツを競技としての視点だけでなくビジネスの資源と捉え、上手に活用することで収益を生み出し、地域経済の発展につなげていくことをめざしています。そこで、関係団体や民間企業と協



働し、スポーツツーリズムの推進などにより地域の活性化をけん引する組織「やまなしスポーツエンジン」を設立します。

やまなしスポーツエンジンは、自然環境を活用したアウトドアスポーツ・アクティビティの開発や、多数の参加が見込めるスポーツイベントの企画・開催をします。また、その過程で得た情報を分析し、新たな企画立案や人材の育成などの取り組みに生かします。そして事業の収益化を図ることで、将来的には自立した運営ができる組織をめざします。

その足掛かりとして、東京オリンピックを契機に機運が盛り上がるサイクルツーリズムに着目し、南アルプス林道を活用したサイクルイベントを試験的に開催することで、観光客の誘致や地域活性化を図ります。さらに、食や文化といった他分野とスポーツを連携させる取り組みも検討していきます。

これらにより、多くの方に山梨県を訪れてもらい、新たな関連ビジネスを呼び込むことで、県内産業の活性化や雇用機会の拡大に結びつけ「スポーツで稼げる県」をめざしていきます。

## 「森林空間の高度活用」 誰もが楽しめる森林空間へ

地域活性化につながる森林活用



森林の中でMTBを楽しむ子どもたち

山梨県は、森林が県土の約78%を占める森林県です。その保全を図りつつ活用し、多くの方に森林の魅力を知ってもらうことで、地域活性化につなげていきます。

その一つがマウンテンバイク(MTB)での森林空間の活用です。「山梨MTB推進協議会」を設立し、利用者が安全に楽しめるルールやコースなどを検討したり、金川の森(笛吹市)にあるMTBコースを改修し、県内外の愛好者を呼び込んだりして、子どもからお年寄りまで誰もが楽しめる森林空間をめざします。



【農村地域の高付加価値化】

農泊×福利厚生で農村地域に新たな価値を

農村を活用した  
体験プログラムを提案



農泊が体験できる施設

農泊や農業体験は、ストレスを抱える都市部住民の「癒しの場」として注目を集め始めており、ストレスケアといった企業の福利厚生に活用できる高い可能性を持っています。

そこで、全国一の生産量を誇るブドウやモモをはじめ、米や野菜、花き、畜産など各地で多様な農業が行われている山梨県の特徴を生かし、企業向けに農泊や農業体験を活用したりフレッシュアッププログラムを提供する取

り組みを展開します。

今年度は、農泊事業者や農家などを対象としたセミナーを開催し、専門家による助言を受けながらプログラムの内容を検討していきます。さらに、農泊事業者や農家と企業とのマッチングをサポートしたり、モニターツアーを開催したりするなどして、プログラムの実施を支援します。農泊や農業体験を最大限に活用して、新たな交流を生み出し、農村地域の課題である担い手確保や所得向上にもつなげていきます。



農村地域の日常が高い付加価値を生み出す可能性を持っている

【文化芸術の振興】

伝統文化の継承と新たな文化創造を支援

「文化立県」の推進

文化芸術は、豊かな人間性や創造力を育むとともに、観光としての魅力や産業の付加価値を生み出す源となり、地域に活力をもたらします。そこで県では、さまざまなジャンルのクリエイターが活動する文化芸術の創造拠点となることで地域を活性化させていく文化立県をめざすべく、さまざまな施策を展開します。

クリエイターコミッション  
やまなしで創作活動を支援

県外のクリエイターが、山梨県内でスムーズに創作活動ができるように支援する組織「クリエイターコミッション・やまなし（仮称）」を設置します。ウェブページを開設し、県外クリエイターが創作活動に必要とする環境が整った活動拠点の情報や、クリエイター同士の交流の場などを提供していきます。

県外クリエイターを県内に呼び込んだり、県内で開催する展示事業を支援したりするなど、創作活動がしやすい環境づくりに取り組み、本県から新たな文化芸術が創造されることをめざします。

文化芸術と観光の融合を促進



県の無形民俗文化財に指定されている追分の人形芝居（大月市）

文化芸術活動の機会を増やし、新たな需要と付加価値を生み出すために、伝統芸能団体が宿泊施設等で行う公演などを支援します。また、アドバイザーを配置し、上質な文化観光コンテンツとなるよう助言します。これらにより、観光資源を掘り起こし、新たな観光拠点としての魅力を再発見するなど、文化観光による地域の活性化を図ります。

## 【美酒・美食を通じた観光誘客】 食×ツーリズムで観光に付加価値を

### 「美酒・美食」ブランドの徹底追求

「食」は重要な観光コンテンツです。食を目的とする旅行者に選ばれる観光地となるためには「美酒・美食」のイメージを定着させることが必要です。そこで県では、県内外の料理人やソムリエなどをメンバーとする「美食コンソーシアム」を設立し、美食ブランドの創造をめざして活動してきました。

今年度は、山梨県の豊かな県産食材を活用した価値の高い料理を創作し、県産ワインや日本酒とのマリァージュによる「美酒・美食」の発表イベントを開催するなど、美食ブランドの確立に向けて、これまで以上に取り組みを進めていきます。



やまなしジビエや県産野菜などを使った料理

### 「ワイン県やまなし」を活用した 周遊観光の促進

日本ワイン発祥の地であり、生産量やワイナリー数が日本一の山梨県は、令和元年に「ワイン県」を宣言しました。今年度は、県産ワインをきっかけとした観光の付加価値を高めるためにオリジナルのワイナリーカードを制作したり、ウェブ上でワイナリー巡りなどのキャンペーン情報を発信したりしながら周遊観光を促進します。また、県民に県産ワインの魅力を再認識してもらうため、醸造家やソムリエによる県民対象のワインセミナーを開催するなどワイン県やまなしのブランド意識を高めていきます。



ワイナリーをきっかけにした観光誘客に取り組む

## 【観光の高付加価値化】 万全の感染症対策を 生かした観光を支援

### 観光誘客で 「山梨ファン」を増やす

グリーン・ゾーン認証制度は、今年第三者認証として全国に拡大し、県内でもほぼ全ての飲食業の皆さんが認証を受け、感染症対策を講じています。

この感染症対策への信頼感が旅行者の安心感につながり、昨年発表された中学生の修学旅行先ランキングでは京都に次ぐ2位となるなど、山梨県は旅行先として観光客に選ばれ、県となつていきます。

これを一過性のものとせず、万全の感染症対策や豊かな自然環境といった優位性を生かし、山梨県ならではの体験コンテンツを取り入れた教育旅行の誘致をさらに加速させていきます。

また、グリーン・ゾーン認証施設の利用や本県特有の食や体験を取り入れたプレミアムツアーを企画して販売する事業者を支援します。さらに、コロナ禍で減少したスポーツ・文化合宿の再開を支援するなど、コロナ後を見据えた観光誘客に取り組む「山梨ファン」の獲得をめざします。

## 【美酒美酒ブランド強化】 国内外への販売支援

### ワインと日本酒でGI指定 輸出拡大に全力

国が地域ブランドを保護する地理的表示（GI）制度において、平成25年に全国初となるワインでの指定に続き、昨年4月には日本酒でもGI「山梨」の指定を受けました。同じ産地から2つの酒類が指定されたのは全国初の快挙です。

これを契機に、国内外に向けてPRする新たなツールとしてウェブページを構築し、山梨県が誇る高品質なワインと日本酒のブランドイメージ「美酒美酒」の定着をめざします。また、近年ワインや日本酒の消費量が増えているアジア圏など、海外に向けたプロモーションを支援することで、さらなる輸出拡大と認知度向上を図ります。



ワインと日本酒の上質さをPR



## 【食材の高付加価値化】 上質さのPRRでブランド価値向上をめざす

「おいしい未来へやまなし」の  
推進でブランド力を強化

昨年4月に立ち上げた県産農畜水産物のブランド「おいしい未来へやまなし」で、品質の良さだけではない山梨県の農畜水産物の特徴を一体的に発信してきました。今年度はさらに、それぞれのブランドの付加価値の向上と、県全体のやまなしブランドの価値向上をめざします。

### 4パーミル・イニシアチブで 農業分野から脱炭素社会に貢献

県は、果樹栽培で発生する剪定枝を炭化させ、二酸化炭素を土壌に貯留することで地球温暖化の抑制に貢献する「4パーミル・イニシアチブ」を推進しています。この取り組みで生産された農産物を認証する制度を設け、ブランド化を図っていますが、今年度は新たに、ブランド力の強化と認知度向上のために、店頭プロモーションやウェブ広告の掲載などを組み合わせた効果的なプロモーションに取り組みます。

また、4パーミル・イニシアチブに果樹以外の作物でも取り組むため、有機質肥料の使用による土壌への炭

素貯留効果を検証するなど、農業分野からの脱炭素社会実現に向けた取り組みをさらに進めていきます。

### アニマルウェルフェアで 全国トップを走り続ける

県は、家畜のストレスをできる限り少なくし、健康的な飼育方法をめざす「アニマルウェルフェア」の認証制度を全国の自治体として初めて創設し、家畜の快適性に配慮した畜産物という新たな付加価値の創出に取り組んでいます。

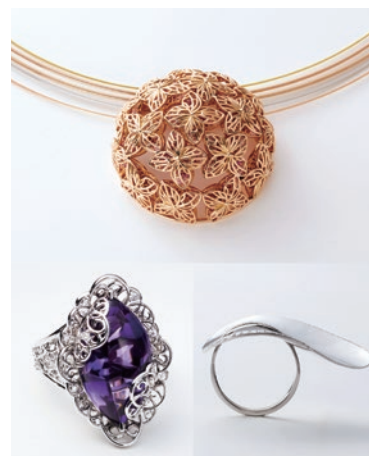
この取り組みでは、認証基準を満たす農場に付与するロゴマークを作成しました。今年度は新たに、メディア向けの情報発信や農家向けの講習会・研修会、消費者・畜産業者向けシンポジウムの開催などにより、認証制度の普及と理解促進を図り、県内外から選ばれる付加価値の高い畜産物をめざします。

## 【地場産業の高付加価値化】 地場産業の世界展開を支援

郡内織物や産地の良さを  
国内外へ発信

郡内地域は、1000年以上の歴史を持つ織物産地として知られています。富士山の伏流水を使い、高度で熟練した技術が生み出す織物は、発色が良く繊細で上質なことから、裏地やネクタイ、傘、ストールだけでなく、インテリアや雑貨などにも使われています。

今年度からは、織物製品の新たな販路開拓のための海外プロモーションや観光客をターゲットにした情報発信の強化、後継者育成のための若手人材の情報交換会や勉強会を開催するなど、織物産地としての認知度向上とブランド確立を図ります。



世界に誇る山梨の宝飾技術  
(提供:山梨ジュエリープロジェクト)

山梨ジュエリーの輝きを  
世界へ届ける



各種取り組みへの周知を図るロゴマーク



郡内織物でつくられたネクタイ

山梨県は、企画・デザインや原料調達から、宝石研磨、貴金属加工、水晶美術彫刻などに熟練した職人による製造技術、さらには流通まで、ジュエリーに関わる産業の集積地です。貴金属装身具の生産額は国内全体の約25%を占め、全国一のシェアを誇ります。

長引くコロナ禍の影響で、展示会などの中止が相次ぎ、ジュエリー産業は打撃を受けています。そこで、新たな有力販路先として中東諸国に注目し、今年度は、現地での市場調査を実施するなど、産業全体を活性化させるための取り組みを展開していきます。

# 一人ひとりの個性や能力が 存分に発揮できる社会を実現

いかなる条件にも左右されることなく個性や能力を発揮できる環境を用意することで、山梨県全体の可能性を最大化します。県は、子育てや介護、多様な価値観を認め合う共生社会の実現など、社会の基礎条件の充実に惜しみなくお金を使います。



## 〔共生社会の実現〕

### 山梨県に多種多様な人材が集い 持続的に成長していくための基礎づくり

#### 多様な生き方を 選べる社会に

多様な価値観を認め合い、誰もが活躍できる共生社会を実現する。これは、多種多様な人材が集い、持続的に成長していくための基礎です。

中でも、男女の人権が尊重され、個人の意欲と能力に応じて多様な生き方を選べる男女共同参画社会の実現に向け、今年度は昨年度の約2倍となる予算を確保し、新たな事業を積極的に行います。

特に「若年層への意識啓発」「女性リーダーの育成」「相談機能の強化」の三つに重点的に取り組めます。そのほか、男女共同参画推進センターに専門人材を配置し、活動に取り組み県民や団体を支援していきます。

さらに、スクールカウンセラー・企業などを対象とした研修や、生徒・職場向けにパンフレットを配布して「性の多様性」を尊重できる社会づくりにつなげていきます。

また、県社会福祉協議会が行う地域支え合い活動に助成し、孤立や孤独を防ぎ誰一人取り残さない地域社会の実現に取り組めます。

#### 人と動物との共生をめざす

猫は繁殖力が強いいため、どんどん増えてしまい、致死処分せざるを得ない場合があります。そこで、猫の無秩序な繁殖を抑えるための不妊・去勢手術にかかる費用を市町村に補助する制度を大幅に拡充し、1億円を超える予算を確保しました。

これにより猫の致死処分数を劇的に減らし、人と動物が共生する社会の実現につなげていきます。



去勢手術を受けた印として右耳の一部がカットされた猫



【子育て・教育環境の充実】

新しい姿の待機児童ゼロ、  
ヤングケアラー支援、少人数学級の拡大

支援センターの設置で  
新しい姿の待機児童ゼロへ

新たに「保育士・保育所支援センター」を設置し、潜在保育士を対象とした研修会や、人材バンクを活用した保育士と保育所とのマッチングなどを行います。これにより年度途中の保育士の確保がしやすくなり、時期を問わず希望する保育所へスムーズに入所できる「新しい姿の待機児童ゼロ」の基盤を整えます。

ヤングケアラーへの支援

家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども「ヤングケアラー」への支援を本格的に始めます。

今年度は、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置を拡充し、子どもが学校内で相談できる機会を増やします。

学校外でも相談できる機会をつくるために、会員制交流サイト(SNS)を開いたり、支えとなる人材を育成したりします。また、周囲の理解を深めるため、テレビやインターネットを通じて積極的に啓発活動をしていきます。

25人学級を小2にも導入  
いじめ・不登校にも対応

きめ細かく質の高い教育を実現するため、昨年4月、全国に先駆けて公立小学校の1年生に25人学級を導入しました。今年4月からはこれを2年生に拡大します。さらに、少人数教育推進検討委員会が25人学級の効果を検証し、この結果を踏まえ、財源なども考慮しながら、3年生以降への導入を決定します。



子どもの可能性を最大限伸ばす

また、いじめや不登校対策に積極的に取り組めるよう、学校内での相談体制を強化するとともに、総合教育センターに「相談支援センター」を設置し、市町村の適応指導教室のサポートや、長期にわたる不登校などに対応できる体制を拡充します。

【誰もが安心して自分らしく暮らせる社会へ】

介護待機者ゼロ社会の実現や  
医療的ケア児への支援体制の整備

施設整備や処遇改善で  
介護待機者ゼロに取り組み

県はこれまでに、介護待機者ゼロ社会の実現に向けて特別養護老人ホームなどの拡充を進め、令和5年度末までに新たに437床を整備することとしています。



全ての世代の安心を支えるため介護待機者ゼロをめざす

また、介護現場では慢性的な人材不足が課題となっていることから、介護ロボットやICTの導入を促進するとともに、国の方針を踏まえ、介護事業所が今年2月から9月まで

行う介護職員の賃上げ相当額を助成し、労働環境や処遇の改善をめざしています。

医療的ケア児やその家族を支援

医療的ケア児とは、病気や障害により人工呼吸器の管理やたんの吸引などの医療的ケアが日常的に必要な子どものことです。医療的ケア児やその家族を包括的にサポートするため、今年度新設する支援センターでは、家族からの相談を受け関係機関と調整しながら、必要な医療や障害福祉サービスにつなげます。また、情報交換会の開催や制度の紹介などにより、広く知識や情報が得られる環境づくりも同時に進めます。



医療的ケア児と家族が安心して暮らせる環境を整備

# 第6波や今後の感染再拡大に対しても 先手対応で手を緩めることなく対策を講じる

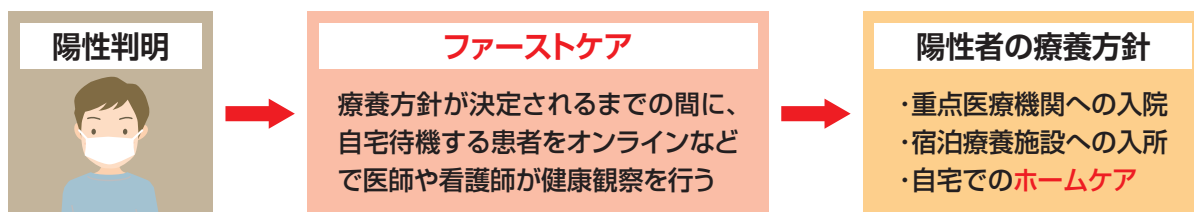
従来株に比べ、感染力の強い新型コロナウイルス感染症のオミクロン株は、年末年始以降全国に加速度的な感染拡大「第6波」をもたらしました。県では、医療提供体制を維持しつつ、早期の経済回復につなげるために、この波の高さをなるべく低く、幅をなるべく狭く抑えるよう先手対応の対策を講じてきました。

## 必要な人に必要な医療を提供する体制の充実

### ■ やまなしホームケアやファーストケアを導入

重症化リスクが比較的低いというオミクロン株の特性を踏まえ、ポストコロナにおける県民医療の強靱化に向けた歩みを進めていくことも視野に入れながら、一定の要件を満たす場合には医師の判断により、ご本人の同意の下、入院や入所をせず住み慣れた自宅で療養していただく「やまなしホームケア」を導入しました。

また、陽性が確認されてから重点医療機関への入院、宿泊療養施設への入所、ホームケアのいずれかの療養先が決まるまでの自宅待機中に、医師や看護師の健康観察が受けられる「ファーストケア」の運用も始めました。いずれも山梨大学や県医師会、各地区医師会の協力の下、万全の医療ケアを受けることができます。



### ■ 宿泊療養施設を追加開設

新規感染者のうち、軽症者や無症状者を対象とする宿泊療養施設に、笛吹市の甲斐リゾートホテルと甲府市のホテルクラウンヒルズ甲府の2施設を追加で開設しました。

甲斐リゾートホテルでは、一部屋に家族が療養でき一緒に過ごすことができます。

宿泊療養施設はこの2施設の169室を加え、全8施設、1,135室を確保して運用をしています。



家族で療養できる宿泊療養施設

## 追加(3回目)ワクチン接種の促進

### ■ 大規模接種会場を設置

これまで、発症、重症化リスクの低減と、市町村の接種体制への負担軽減のために、県はワクチン未接種者への接種会場を設置して、接種率向上に効果を上げてきましたが、昨今のオミクロン株や新たな変異株に備えるため、追加接種となる3回目のワクチン接種対象者や1、2回目のワクチン未接種者への大規模接種を2月19日から開始しました。

県内各地でワクチン接種を促進させるため、県立美術館や県立文学館、アイメッセ山梨(いずれも甲府市)、アピオプラザ都留(都留市)、西桂町さずな未来館(西桂町)に会場を設置しました。



県が設置した大規模接種会場(県立美術館)



## いち早い経済回復と成長軌道への回帰に向けて

県では、県民や事業者の皆さまのご協力の下、第6波収束後のいち早い経済回復と成長軌道への回帰に向け、全力で取り組んでいます。

### ■ やまなし食のグリーン・ゾーン応援キャンペーン

やまなしグリーン・ゾーン認証を取得した飲食店などで利用できる、20%お得なプレミアム食事券を販売しています。お店が定める感染防止のルールを守って、食事やテイクアウトなどにご利用ください。

【販売・利用期間】 6月30日(木)まで

【利用対象店舗】 やまなしグリーン・ゾーン認証を取得し、キャンペーンに参加登録した飲食店など

【販売額(利用可能額)】 1セット8,000円(10,000円)

※1セットは1,000円券の10枚つづり

【販売場所】 県内の郵便局、商業施設など

【問い合わせ先】 プレミアム食事券事務局

〈利用者向け〉TEL 050-5443-1193(午前10時~午後5時(平日))

〈飲食店向け〉TEL 055-249-8195 (午前10時~午後5時(平日))

山梨 プレミアム食事券



### ■ 県内事業者に対する金融支援

オミクロン株の急激な感染拡大を受け、当面の運転資金が不足している小規模企業者への支援として、短期事業資金に対する利子補給を行うとともに、返済に苦慮している事業者への支援として、借換融資制度を創設しました。

短期事業資金(利子補給の新設)		新型コロナウイルス感染症関連借換融資	
限度額:500万円	実施期間:~令和4年8月31日	限度額:1,000万円	実施期間:~令和5年3月31日
貸付期間:6カ月以内		貸付期間:10年以内(据置3年以内)	保証料:全額補助
年利率:1.7%(全額補給)		年利率:2.1%(借換時から2年間は全額補給)	
対象:小規模企業者 (従業員数20人以下、商業・サービス業は5人以下)		対象:R2年度のコロナ対策融資(ゼロゼロ融資)及び R3年度の経済変動対策融資 (セーフティネット保証4号、5号及び危機関連保証)からの借り換え	

【問い合わせ先】 中小企業金融相談窓口 TEL 055-223-1554(午前9時~午後4時(正午~午後1時を除く平日))

### ■ 事業復活支援金

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、売上げが減少した事業者には国から事業復活支援金が給付されます。商工会議所、商工会、農協、税理士・行政書士等の士業、金融機関などの身近な登録確認機関にご相談ください。



【申請期間】 5月31日(火)まで

【給付額】 基準期間<sup>※1</sup>の売上高-対象月<sup>※2</sup>の売上高×5カ月分

※1 2018年11月~2019年3月/2019年11月~2020年3月

/2020年11月~2021年3月のいずれかの期間

なお、売上高減少率と法人・個人の区分に応じて給付額に上限があります

※2 2021年11月~2022年3月のいずれかの月

【問い合わせ先】

〈制度に関すること〉

事業復活支援金事務局相談窓口

TEL 0120-789-140

(午前8時30分~午後7時(土日含む))

〈給付支援に関すること〉

甲府商工会議所や富士吉田商工会議所、  
県内の商工会など身近な登録確認機関

【申請方法】

国の一時支援金や月次支援金を過去に



発熱<sup>けんたい</sup>や倦怠感など、少しでも体調の変化を感じたときは、外出を控え、まずはかかりつけ医など最寄りの医療機関に相談してください。相談先に迷う場合や夜間・休日などは、24時間対応の受診・相談センターにご連絡ください。

山梨県新型コロナウイルス感染症受診・相談センター COVID-19 Information Center		甲府市受診・相談センター (甲府市にお住まいの方)	
日本語(Japanese)	Multilingual(19 languages)		
TEL 055-223-8896	TEL 092-687-7953	TEL 055-237-8952	

High Quality Yamanashi

HOME 観光・食・文化 生活 ビジネス LINK

山梨県の様々な魅力をお届けする県公式のブランド情報発信サイトです

**企画記事**

山梨県丹波山村の「のめこい湯」でアウトドアサウナ！温泉と大自然で癒しの時間を堪能する

山梨県は全面積のうち78%が森林で、日照時間の長さは日本一。大自然と太陽の賜物ともいえる…

2022.02.01 [記事を読む](#)

**LINK記事**

天に選ばれし、名水の地。山梨。

山梨県は世界文化遺産の富士山をはじめ、南アルプス、八ヶ岳、奥秩父の山々に囲まれ、広大な森…

2022.02.16 [記事を読む](#)

**職員記事**

県職員企画記事

郡内織物  
～富士山麓に生き継ぐ伝統と技術～

High Quality Yamanashi Shokunin Kiji

郡内織物～富士山麓に生き継ぐ伝統と技術～  
こんにちは。ハイクオリティやまなし編集部のおしるこです。県職員が自ら企画して執筆する職員…

2022.02.25 [記事を読む](#)

**LINK記事**

山梨県のスポーツコミッション

「スポーツコミッション」とは、スポーツ振興と地域振興を結びつけた活動の推進組織やその取り…

2022.02.22 [記事を読む](#)

**企画記事**

山梨県丹波山村の「おいしい」をご紹介します！タバジビエ「タバラーメン」とジビエの村のグルメたち

山梨県丹波山村の「おいしい」をご紹介します！タバジビエ「タバラーメン」とジビエの村のグルメたち

山梨県の北東部、埼玉県と東京都との県境に位置する丹波山村は、人口530人（'1）と関東エ…

2022.02.21 [記事を読む](#)

**LINK記事**

やまなしのインフラの魅力

「インフラ」とは「インフラストラクチャー（infrastructure）」の略であり、こ…

2022.02.18 [記事を読む](#)

**企画記事**

山梨が世界に誇るハイクオリティな日本酒とワイン、GI「山梨」

2021年4月、日本酒において地理的表示（GI）「山梨」の指定を受けました。すでに201…

2022.02.21 [記事を読む](#)

地域資源ブランドの情報を一元化して発信するサイト「ハイクオリティやまなし」

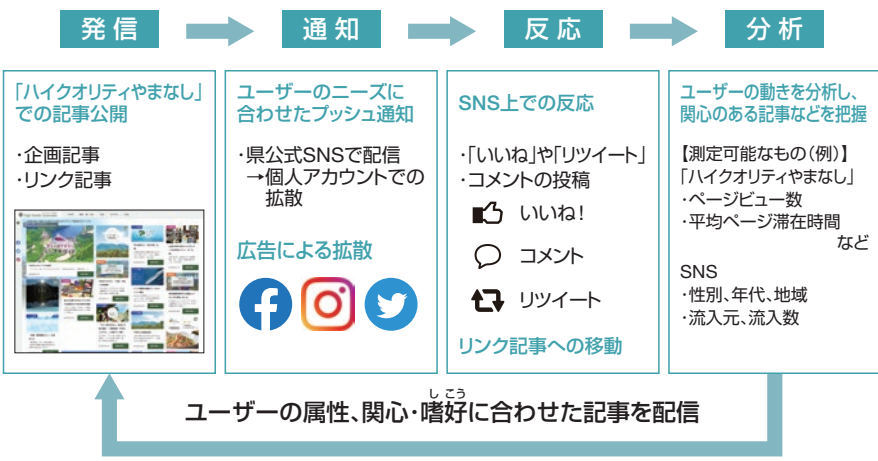
資源ブランドの情報を発信するポータルサイトを一元化して発信する「ハイクオリティやまなし」は、県民や観光客、関係者などに向けて、山梨県の魅力を発信するプラットフォームとして、2022年2月に開設された。本県のあらゆる地域資源ブランドの情報を発信するポータルサイトを一元化して発信する「ハイクオリティやまなし」は、県民や観光客、関係者などに向けて、山梨県の魅力を発信するプラットフォームとして、2022年2月に開設された。

県では、地域プロモーションを戦略的に進めるために、地域資源が持っている上質な魅力や価値を発信して「やまなし」そのもののブランド価値を高め、さらにその効果が各地域資源のブランド価値も押し上げるという好循環の創出を目指して取り組んでいます。

「やまなし」のブランド価値向上が地域資源の価値も高める

県では、地域資源の魅力や価値などを広く発信するプロモーション活動を展開し、その効果が「やまなし」そのもののブランド価値を向上させ、さらにそれぞれの地域資源に波及するよう取り組んでいます。その一環として、本県のあらゆる地域資源ブランドの情報を発信するポータルサイト「ハイクオリティやまなし」の運用を開始しました。

# やまなしブランド情報発信サイト「ハイクオリティやまなし」で地域資源の高付加価値化に挑戦







サイトに掲載された企画記事、リンク記事、広告バナーをクリックすると、詳細な記事などを読むことができる



ハイクオリティやまなし



### あらゆる地域資源ブランド情報の入口となり、本県の魅力を余すところなく伝える

タルサイト「ハイクオリティやまなし」です。  
このサイトでは、県のホームページに点在していたブランド情報をまとめてご覧いただけます。また、SNS上での反応やサイト上でのユーザーの動きを分析し、関心が高い記事などを把握して、配信内容などに反映しています。

ハイクオリティやまなしでは、それぞれの地域資源の背景にあるストーリーや県の取り組みを紹介する企画記事、既存のサイトページを紹介するリンク記事、紹介したいサイトページへの広告バナーなどを組み

合わせて、本県に興味を持ってサイトを訪れた方に、山梨の地域資源ブランドを幅広く知っていただけるような工夫をしています。  
また、フェイスブックやツイッター、インスタグラムといった山梨県公式のSNSと連動させ効果的に情報を発信するほか、海外で関心の高い地域資源の記事を多言語化し、海外の方に向けた情報発信も行っています。  
今後これに足掛かりに、ユーザーがアクセスすることが多いサイトやSNSなどの情報源をしっかりと把握して、継続的により質の高い情報発信を続けることで、やまなしブランドの強力なファンが増え地域資源の高付加価値化を実現できると考えています。

## 地域資源の魅力や価値を発信して「やまなし」のファンづくりに挑戦

— 具体的にどのような取り組みをしていくのか

「ハイクオリティやまなし」での地域資源に関する記事や広告バナーの掲載による情報発信に加え、各SNSを活用した発信に力を入れています。

— なぜSNSなのか

若年層をはじめとした全世代で多くの人がインターネットから情報を得る時代となっています。そこで、SNSへの投稿や広告を多く打ち出すことで、投稿の拡散や「ハイクオリティやまなし」への誘導を図ることとしています。

— 各SNSの活用方法

フェイスブックでは県政情報全般、ツイッターでは速報性が求められる情報、インスタグラムでは画像が中心の情報などと、それぞれの特性に合わせて投稿をしています。特にフェイスブックでは、フォロワーや「いいね!」の数が増えてきており、少しずつ効果が出ています。

さらに、記事や投稿に対する利用者の動きを分析し、次の情報発信や県の事業に反映させ「やまなし」のブランド価値を向上させていきたい

と考えています。

— どのような情報を伝えたいのか

これまでも地域資源ブランドの情報を発信してきましたが、中にはブランドの魅力や価値があまり目に見えないものもあります。

取材をするまで、私自身も知らなかったこともあり、山梨にはいろいろな魅力があるのだと改めて実感しています。そういった情報を国内外の皆さんにわかりやすくお伝えし、山梨の魅力を感じてもらいたいと考えています。

— 今後の展望は

「ハイクオリティやまなし」には山梨の魅力がたくさん詰まっています。このサイトでの地域資源の発信で、一人でも多くの方に「やまなし」を好きになってもらえるよう、今後も内容を充実させていきますので、ぜひご覧ください。



政策調査グループ 塩澤 侃士 主事



NEWS

**日本航空高等学校男子バレーボール部に  
 「山梨県イメージアップ大賞」などを贈呈**



イメージアップ大賞の表彰式。左から月岡監督、前嶋主将、長崎知事、篠原校長

第74回全日本バレーボール高等学校選手権大会において、山梨県代表として初の日本一となった日本航空高等学校男子バレーボール部に、県は「山梨県イメージアップ大賞」と「やまなしスポーツ賞」を贈呈しました。

山梨県イメージアップ大賞は、県民に感動を与えるような活躍をし、県のイメージアップに貢献した個人や団体を表彰する賞です。2月に行われた表彰式では、出席した前嶋悠仁主将、月岡裕二監督、篠原雅成校長に県産材のヒノキで作られた表彰状などが手渡されました。

長崎知事は「逆転に次ぐ逆転での勝利で優勝し、県民に感動を与えてくれました」とその栄誉をたたえました。

手渡された表彰状を持ち前嶋主将は「今まで応援し、支えてくれた人に感謝しています。大学に進学しますが、バレーボールだけでなく学業にもしっかり取り組みたい」とあいさつをしてくれました。

また、スポーツの全国大会などにおいて優秀な成績を収め、県のスポーツ振興に顕著な貢献をした選手などを表彰する「やまなしスポーツ賞」も併せて贈呈しました。

ここから下の段は広告です。広告の内容については、広告主にお問い合わせください。



## 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシー 選手村ビレッジプラザで使用された県産木材を再利用へ



本県が提供した県産木材が使われた選手村ビレッジプラザ



大会で使用されたことを示す焼き印が押された返却木材

東京2020オリンピック・パラリンピック選手村の交流施設ビレッジプラザは、大会終了後も全国各地にレガシーを残すことを目的に大会組織委員会が実施したプロジェクト「日本の木材活用リレー ～みんなで作る選手村ビレッジプラザ～」に参加した、全国63の自治体から提供された木材で建てられました。本県もこのプロジェクトに参加して、南部町産のヒノキと北杜市産のカラマツ合わせて775本の県産木材を提供しました。

ビレッジプラザは大会後に解体され、昨年11月から各自治体に返却が始まり、本県分は1月12日までに返却が完了しました。

今後、木材は利用希望があった市町村などに引き渡され、県立農林高校では授業でベンチなどを製作して近隣の小中学校などに贈るほか、県立馬術競技場では馬術競技の障害物に、身延中学校新築工事では武道場の内装に利用するなど、県内各地で活用されることとなっています。

## 県、甲府市、甲斐市と甲府観光開発株式会社が観光振興で連携協定



県庁で行われた協定締結式。左から笹本甲府観光開発株式会社代表取締役、樋口甲府市長、長崎知事、保坂甲斐市長

県の中央部に位置する信玄の湯湯村温泉や日本遺産に認定された昇仙峡は、県内各地への周遊観光の拠点として期待されています。この地域の活性化が、本県全体の観光振興につながることから、官民連携して地域活性化を促す高付加価値化に取り組むため、2月15日、この地域の再開発事業を行っている甲府観光開発株式会社と県、甲府市、甲斐市が観光振興に関する連携協定を締結しました。

協定では、この地域の高付加価値化を通じて、県全体の観光振興を推進することを目的としており、そのために観光資源の磨き上げ、持続可能な観光の推進、周遊観光の促進などで連携することとしています。長崎知事は「甲府観光開発株式会社が進める構想について、もっと知恵を出し合い、目指していることを実現させていきたい」と連携への意気込みを述べました。

ここから下の段は広告です。広告の内容については、広告主にお問い合わせください。



商品提供:甲州地どり市場

「甲州地どり塩麹ドレッシング2本」抽選で**5名**の方に!

「美味しい甲斐開発プロジェクト」については、  
県ホームページをご覧ください。

美味しい甲斐



多言語翻訳や音声読み上げに対応したデジタルブック

カタログポケット



「ふれあい」の誌面をパソコン、スマートフォン、タブレットでそのまま  
ご覧いただけます。

《FUREAI》雑誌の电子版可以在智能手机或者平板电脑客户端阅览。  
(中国語・簡)

You can now read pages from Fureai directly on your  
smartphone, tablet, and other devices. (英語)

スマートフォンで「ふれあい」をもっと身近に

スマートフォン専用サイト



「ふれあい」の誌面をスマートフォン専用の  
ウェブサイトでもご覧いただけます。言語切  
り替えが可能で、ページが縦と横にスク  
ロール表示されるので、スマートフォンで読  
みやすくなっています。



県政情報  
発信中!

県ホームページ



Facebook



Twitter



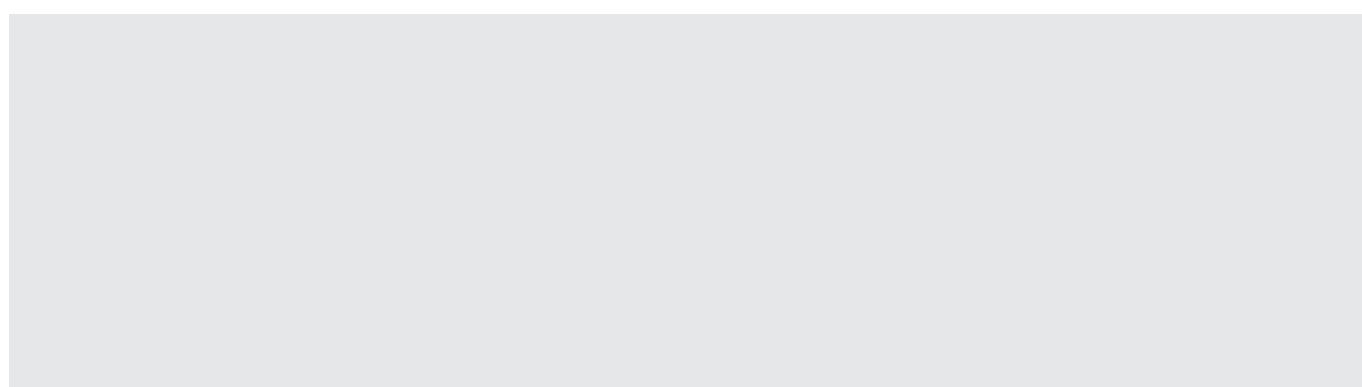
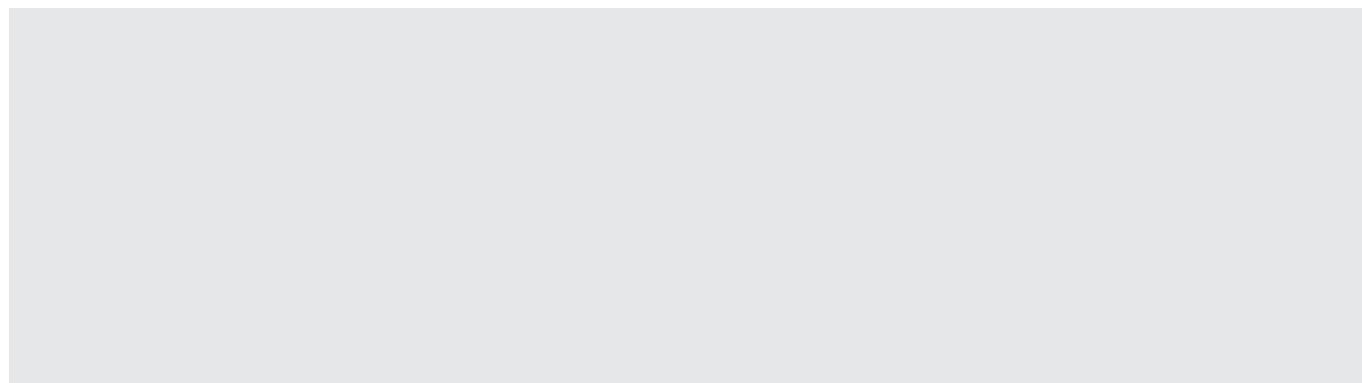
広報番組



広報誌



ここから下の段は広告です。広告の内容については、広告主にお問い合わせください。



やまなしの県有林は、森林管理  
認証を取得し、世界的な基準で  
豊かな森づくりを行っています。



この印刷紙には、FSC®森林管理  
認証を取得した山梨県有林から  
の木材が使用されています。

アンケートに答えて応募しよう!

次の①～⑥と【アンケートの回答】をご記入いただき、はがき、  
電子メール、ファクスのいずれかの方法でご応募ください。  
①郵便番号 ②住所 ③氏名 ④年齢 ⑤電話番号 ⑥メール  
アドレス(ある方)

●アンケート

問1: 今号の中で最も関心を持った内容は?

問2: あなたが考える(望む)コロナ後の山梨の未来は?

※いただいたご意見の一部を紹介させていただくことがあります。

●応募先

山梨県広聴広報グループ「ふれあい読者プレゼント」係

はがき: 〒400-8501 甲府市丸の内1-6-1

電子メール: koucho@pref.yamanashi.lg.jp

(件名に「ふれあい読者プレゼント」と入力)

ファクス: 055-223-1525

●締め切り

4月30日(土)(当日消印有効)

賞品の発送をもって、当選発表に代えさせていただきます。個人情報や賞品の  
発送のほか、県からのお知らせなどのために、使用させていただくことがあります。